


# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>			
1.理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らし暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念に添ったケアを行なうように努めている	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や職員室に理念を掲げケアプラン作成時には理念に添う様に立てている。	個別対応を行なっている。 接遇目標に理念を取り入れ、毎朝読みあげている。 理念を申し送り前に読みあげるようにしたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には入居時、面会時に理念に添ったケアを行なう事をせつめいしている	「めぐみ便り」や季節毎に配布するホーム便りに理念を記載していきたい。
2.地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	当ホームの新聞や隣接の老健センターの新聞にも当ホームの説明を載せ、定期的に近所に配っている。	玄関前には季節の花を植え、手作りの木のポストを置いている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会には参加していないが、商工会のお祭りや、地域の文化祭の見学に行っている。	今年は隣接する老健センターと合同で、あじさい祭りを開催し、フリーマーケット、地域業者の食バザーを行なった。小学校、幼稚園などにパンフレットを配り、地域の方の多数の参加があった。地域のギャラリー「ほのぼの作品展」を行なった。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域高齢者への支援はできていない。		ホームで役立つ事がないか地域の民生委員と相談していきたい。
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果および改善すべき点は介護会議で話し合っている。		ホーム便りを定期的に地域に配る様にした。職員に地域交流に対するアンケートを行い、実践していく様にしている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行い、敬老会や家族会などに参加してもらえる様声かけしている。		今年から校区の民生委員に参加してもらい、アドバイスを受けている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には包括支援センター職員、民生委員の方に出席してもらっている。 市担当者の出席は困難である。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居時に資料を渡し説明している。又その都度必要と思える時には相談を受けている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念に添ったケアを行なっている為虐待は無い。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族、本人とよく話し合い、希望を聞いている。又、口頭・文章で十分に説明を行なっている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時、苦情相談窓口の説明を口頭、文章で行なっている。日々の生活の中でコミュニケーションを多く取る様にしている。</p>		<p>玄関に意見箱を設けている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月個々の担当者が手紙を書き、めぐみ便りとして送っている。面会時や電話などで報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時、苦情相談窓口の説明を口頭、文章で行なっている。定期的な家族会、無記名アンケートを行い、改善している。</p>		<p>家族への無記名アンケートを行なった。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>介護会議、リーダー会議などを出してもらい、可能な限り反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>可能な限り勤務の調整に努めている。勤務表を組む段階で分かっている場合は、必ず確保している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>人事異動は基本的には行なわないこととしている。新しい職員の場合は数週間サブで仕事について貰い、利用者に十分馴染んでもらうようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	<p>採用にあたっては特に性別などで断るようなことはしていない。</p> <p>各職員が得意な分野の係りを担当したり、レクリエーション等で個々の能力を發揮できる様にしている。</p>	
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>めぐみの理念に基づいて入居者に思いやりを持って接するように指導している。隣接する老健との合同勉強会で数回取り上げている。</p>	
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>福岡県グループホーム協会に登録し、地区ごとの研修、勉強会に積極的に参加を勧めている。</p> <p>その他の研修にも勤務内で行ける様に勤務表を組んで隣接する老健と合同の全員参加の勉強会を年三回行なっている。又、看護協会の主催する講習(救命法、接遇など)にも参加している。</p>	<p>研修に全員が参加することは困難なので介護会議の際に参加した職員が口頭、または文章で内容を伝達している。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>福岡県グループホーム協会に登録し、地区ごとの研修、勉強会に積極的に参加を勧めている。</p> <p>その他の研修にも勤務内で行ける様に勤務表を組んで隣接する老健と合同の全員参加の勉強会を年三回行なっている。又、看護協会の主催する講習(救命法、接遇など)にも参加している。</p>	
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>グループホーム協会のCブロックの勉強会の会場を各グループホームで順番に行なっている。又、お互いの施設を相互に一日がかりで訪問・見学させてもらっている。</p>	
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>職員一人ひとりが担当する係りがあり、責任を持ってホームの運営を担っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に本人とも面接を行なうが、認知症の程度によっては分からないこともある。入居されてから日常的コミュニケーションを通し理解していく様に努めている。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の面接で家族の状況を理解し、面接時に話しやすい雰囲気作りを行なっている。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族、本人の希望を受け止め、ケアプランに反映させている。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に当ホームに来てもらい、馴染んでもらったり慣れるまで家族に泊まってもらったりしている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>料理の味付け、きょうざの皮包み等を一緒に行なう戦争や若い頃の話聞き、その頃の生活を教えてもらったりしている。</p>	<p>梅干漬け、白菜漬け、季節の花植え等を一緒にしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話でコミュニケーションを取り、家族会や行事にも参加してもらっ様声かけをしている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	面会を多くしてもらっ様にしている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	キーパーソン以外の家族にも行事参加の声かけをしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食堂のテーブルの座席の位置を考慮している。 仲の良い人同士、居室訪問されている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院時、面会に行ったり、家族と連絡を取ったりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の希望を聞いたり 日々のコミュニケーションで希望を汲み取るようにしている。</p>	<p>大腿頸部骨折後、医師より認知症があるため車イスが目標といわれた利用者が、立ち上がり 歩こうとされた為、スタッフが手引きなどを行ない、現在近接見守りでの独歩が可能となった。</p>
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>居室に自宅で使っていた寝具類や仏壇などを持ってきてもらっている。茶碗、はしも個人用。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日個人記録をし、朝・夕、申し送りを行なっている。大事な事は申し送りノートに記録し、情報を共有している。</p>	<p>月1回ユニットカンファレンスを行ない、情報交換をしている。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族との連絡を密に取り、本人とは日常会話、生活動作の中から希望をくみ取っている。申し送り前後やカンファレンスで話し合っている。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に作成する以外にも心身の状況に応じその都度ケアプランを作成している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個人記録をし、朝・夕、申し送りを行なっている。		申し送りノートに重要な事を記入し、読んだ人はサインをしている。
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出好きの方と外食、買い物などの個別対応を行なっている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に(2ヶ月に一回)消防訓練を行なっている。 運営推進会議には市域包括支援センター職員、民生委員の方にメンバーになってもらっている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族の希望で通院介助サービスの事業者を利用されている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーになってもらっている。 他老健入所中の方が要支援になった時、支援センターより相談を受け、当ホームで受入れた。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診してもらっている。 かかりつけ医がいない場合は紹介している。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の状態変化時に電話、文書で連絡、相談している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤で准看護師が勤務している。 又、隣接の老健の看護師長と連携を取り、相談している。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院側のソーシャルワーカーと連絡を取っている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族との話し合いはできていると思う 主治医がばらばらな為、出来ている主治医と出来ていない主治医がある。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在終末期の利用者はいない。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	主治医の紹介書や介護添書を持っていってもら		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念に基づきケアを行なっている。 入居時、個人情報保護法について説明し、実践している。	
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めた！納得しながら暮らせるように支援している	一人ひとりに合わせた言葉掛けを行い、コミュニケーションの中でその人の希望を見つけ出すようにしている。	
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアの声掛けを拒否されたときは時間をおき再度声掛けをしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	隣接の老健で週1回理美容があり、ほとんどの方が利用されている。	希望によりカラー、パーマ、顔そり等もしてもらっている。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けを一緒に行なっている。 梅干、白菜を一緒に漬けている。	そうめんちり(郷土食)を行事と時に作ったりと、ひな祭りにちらし寿司等季節の料理を作っている。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒は行事の時に出している。 飲み物、おやつ等は本人の希望に合わせている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンに合わせてケアを行なっている。排泄チェックシートを利用することもある。		入居時紙パンツ+パット使用されていた方が、現在布パンツを使用されている。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中に入浴を希望される方が多く、以前トラブルになった為、現在は順番を決めている。その日の状況に応じ変更している。		声かけに拒否された時は時間を置き再度声かけをしている。受診、外出に合わせている。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個室の為、遅くまでテレビを観ていたり夕食後すぐに臥床されたりしている。		夕方は居室に麦茶を配茶している。主治医と連絡を取りなるべく睡眠薬は使用しない様になっている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力に応じ、出来ることはなるべくしていただくようにしている。		布団のエリ付けを一人でされる。食堂の掃き掃除をされる。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は所持してもらい、管理出来ない方も買い物時は自分でお金を支払ってもらっている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、ドライブを多くしている。		個別対応として外食、買い物を出来る限り行なっている。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	年2回昼食を兼ねたバスハイクを行なっている。家族にも声をかけ、参加してもらっている。		唐津城、曲淵ダム、花博、福岡タワー等に行った。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に公衆電話を設置している。自分で掛けられない方が希望されたらスタッフがかけ、受話器を渡している。		10円玉を常に準備している。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時、居室や食堂で過ごしてもらい、お茶やおやつ等を出している。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なわない。否定的な言動はしない様、日頃よりスタッフ間で話し合っている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前は駐車場になっている。又、道路も車の通りが多いため、家族の希望もあり玄関は施錠している。		個室の鍵は本人の自由にしている。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はレクレーション、茶話会の声掛けを行い、夜間は巡視を行なう。常に利用者の状態を把握するように努めている。		一時間おきに巡視している方もいる。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	針、はさみ等は利用者の判断能力によって自己管理してもらっている。		自分で布団のエリ付けされているかたもある。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	あらゆる面での事故対策を行い、個人個人に対する対策を話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成している。 月3回老健で行なわれる緊急時対応勉強会に参加している。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、2ヶ月に一回避難訓練を行なっている。		災害食の備えをしている。 IH調理器の為、カセットコンロを用意している。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時、または状態が変化した時、家族に報告、相談をしている。対応策はカンファレンス等で話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックと状態をカルテに記録し、朝・夕で申し送りしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬の説明書をカルテに綴じている。 利用者の状態に応じ服薬介助を行なっている。		錠剤が飲めない方は服用直前に粉にしている。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便有無の記録をし、便秘時には利用者に応じた処置を行なっている。		冷たい牛乳を飲んでもらったり、腹部のマッサージを行なう
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・夕食後に口腔ケアの声かけ、介助を行なっている。		歯科居宅療養管理指導を受けている方もいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者の栄養士にメニューを作成してもらい職員がチェックしている。食事摂取量のチェックを行なっている。		嫌いな物は代替食にしている。 季節の食材を取り入れるようにしている。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	11月から4月は利用者に朝・夕方うがい、面会時があったときは手洗い・うがいをしてもらっている。 汚物を取り扱う時は手袋を使用している。		今後感染マニュアルを作成予定。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は食材別(肉・魚・野菜)にしている。 食器乾燥機を使用している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にベンチや手作りポストを置き、季節の花も植えている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、浴室に暖簾をかけている。 トイレは目の高さに目印をつけている。 廊下には写真を提示している。 食堂には習字や絵を貼っている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを置き、利用者同士話せるようにしている。 食堂にはソファを置いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団や家具はなじみの物を持ってきてもらっている。		仏壇を持ってきている方もいる。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝・夕で換気する様にしている。 各居室にエアコンがあり、その方に応じた温度調節をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室には手すりを設けている。 車椅子使用のため、一部のトイレのドアをカーテンに変えた。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々にあった声かけを行い、日常生活の中で出来ることをスタッフと共にしてもらっている。		
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	ベランダに季節の花を植え、水やりや洗濯物干しをスタッフと一緒にこなしている。		

**.サービスの成果に関する項目**

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に 1 回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

**【時に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

10月～4月まで、手洗い、うがいを職員、利用者、面会者に徹底している為、インフルエンザ感染者はいなかった。うがい薬には紅茶を使用している。  
今年度より2ヶ月に1回消防訓練を行なっている。(夜間帯を想定して)  
個別対応を出来る限り行なっている。  
誕生会はその方の好みのものを用意して誕生日の日に行なっている。